AGUD・P Library Letter

平成30年 3月利用状況

平成30年4月2日

(1)開館日数及び入館者数

（昼間・9:00～17:30、夜間・17:30～20:00）

	開館日数		入館者数		
	昼間	夜間	昼間	夜間	合計
楠元	21	5	3,301	89	3,390
末盛分室	21	21	2,241	339	2,580
合計	――――		5,542	428	5,970

学外利用者（登録なし）：

楠元	2
末盛分室	0

(2)帯出人数

	教職員	学生	その他登録者	合計
人数	48	108	11	167

帯出人数「学生」のうち ：人

歯学部学生	薬学部学生	短大生
58	24	2

(3) 帯出冊数

	教職員	学生	その他登録者	合計
冊数	107	195	22	324

(4)-1文献相互貸借依頼件数

	件数	
学外受付	62	(39)
学外依頼	18	(0)
合計	80	(39)

(4)-2図書・雑誌貸借依頼件数

	件数	
学外貸出	0	(0)
学外借受	0	(0)
合計	0	(0)

※（ ）内数字は大学図書館以外

(4)-3CAN図書貸借依頼件数

	件数
学外貸出	0
学外借受	0
合計	0

(4)-4学内図書貸借依頼件数

	件数
学内貸出	1
学内借受	3
合計	4

花開く3月、暖かい日が続き校内の桜も満開でした。桜を見て毎年思い浮かべるものと言えば、梶井基次郎の『桜の木の下には』（『檸檬』収録。913.6/150 楠元開架）と、坂口安吾の『桜の森の満開の下』（081/09/0550日進開架学生）です。どちらの作品も、桜を美しい花として愛でているわけではなく、その美しさに畏怖を感じています。

タイトルに『桜』が付く作品は数多くありますが、どうしたわけか桜を怖ろしいと感じる作品に惹かれます。桜が咲くとお花見と称して宴会をする人が多いのに、作品になると、儚さと潔いまでの散り様が取りざたされることが多いのも不思議です。

みなさんは桜を見て何を感じるのでしょうか？